

APAコーポレーション

珪素の化粧品採用も増加

第66回販売会社会議で報告

水溶性珪素の原料メーカーであるAPAコーポレーション(エーピーエー)が、本社愛知県、岡田憲己社長、(株)05661931100)は9月29日、第66回目となる販売会社会議を、都内のフクラシア品川クリスタルスクエアで開催、約70社の販売会社が参加した。

冒頭、岡田社長が講演。同社では、水溶性珪素原料「umo(ウモ)濃縮溶液」について、pHの値などを改良した新タイプを18年に発売し、化粧品原料など美容分野での活用が進んでいたが、「200社を超える、ウモ濃縮溶液の販売会社からの要望があるため、従来タイプも再発売し、販売者がどちらにするかを選べるようにした」と報告した。従来タイプは「ウモ濃縮溶液(R)」の名称で、新タイプは「同(M)」の名称で、それぞれ販売する。両タイプとも、食品・化粧品両方について、原料供給・OEM供給に対応できるといふ。

ウモ濃縮溶液について、日本語版に加え、英語版、中国語版のカタログを用意していることや、新発売した粗殻由来の植物性水溶性珪素「plant umo(プラントウモ)濃縮溶液」について企画書・カタログを用意していることも報告した。

また、もみ殻由来の珪素商品が増えていることについて、「『もみ殻』安全』という認識は間違っている」とを説明した。

岡田社長は「当社の水溶性珪素が、化粧品に採用されるケースも

増えているとし、ウモ濃縮溶液を用いた試験で、「抗老化関連遺伝子発現」「保湿バリア機能関連遺伝子」の2項目について、良好な結果が得られたことを報告した。

水溶性珪素の農業活用に向けた試験栽培が進んでいることも報告。マメ科、ウリ科、ナス科などの植物で、生育に対する良好な効果が確認されているとした。

リンゴの栽培にウモ濃縮溶液を使用したサンプリング試験では、「うどんこ病の発病がみられず十分な効果が得られた」「果実良品率が高まった」といった声が得られたという。

新製品として、ふる用の「ウモバスエッセンス」とブレスケア用の「イキイキJERO」を発売したことも報告した。

高濃度ケイ素溶出セラミックボールの機能性を生かした洗濯補助商品

「ケイ素でお洗濯」が好評を得ていることも紹介。「洗剤を使わずともよい点が特に評価されている」と話した。

続いて、life park biz(本社東京都)の金子昭伯会長が登壇、「時代の変化と近未来の予測」をテーマに講演。進むネット化など、先を読む重要性を説いた。静岡県と愛知県で食品加工工場をM&Aしたことも明らかにした。

日本珪素医科学学会 学術発表会を開催

水溶性珪素の研究発表

現役医師による報告も

珪素に関する学術研究を推進する日本珪素医科学学会は9月29日、第36回学術発表会を都内のフクラシア品川クリスタルスクエアで開催、富山県立大学工学部工学研究科の立田真文准教授が登壇し、水溶性珪素と安全性に関する講演を行ったほか、現役医師による報告も行われた。水溶性珪素を研究する医師や学識経験者、珪素商品の販売会社の関係者ら150人が参加した。



富山県立大学工学部工学研究科の立田真文准教授



ブルークリニック青山の内藤真礼生院長



日本珪素医科学学会幹事会幹事長のリンクス・村田智寛社長

さまに水溶性珪素を広めていきたい」などと話した。

次に、ブルークリニック青山の内藤真礼生院長が登壇。同クリニックでは、発達障害児の睡眠改善や、骨粗しょう症、膠原病といった患者に対して、水溶性珪素を用いていることを報告した。

水溶性珪素の有効性のメカニズムに、生体マトリックス系や電気作用、波動(電磁波)といったことが関与している可能性があるという考えを示した。具体的な症例の報告などにも行った。

立田准教授の講演のテーマは「粗殻珪素≠非晶質」の誤認識がもたらす危険と粗殻珪素の物性パート2」だった。5月に行われた前回の学術発表会に引き続き、水溶性珪素の安全性に関する講演を行った。

立田氏は講演で、「食物由来の珪素は、竹塩に関する講演なども行われた。